

再評価結果（平成24年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：三浦 真紀

事業名	一般国道188号 <small>やない</small> 柳井バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中国地方整備局																
起終点	自：山口県柳井市柳井 至：山口県柳井市南町三丁目			延長	3.5 km																
事業概要	<p>一般国道188号は、<small>いわくに</small> 岩国市を起点とし、<small>くだまつ</small> 下松市に至る延長約70kmの主要幹線道路である。 柳井バイパスは、柳井市中心部の交通混雑緩和、交通安全確保を目的とした柳井市柳井から柳井市南町三丁目に至る延長3.5kmのバイパスである。</p>																				
H元年度事業化	H元年度都市計画決定 (H14年度変更)	H4年度用地着手	H10年度工事着手																		
全体事業費	約170億円	事業進捗率 (H22年度末現在)	52%	供用済延長	2.5 km																
計画交通量	12,900~19,900台/日																				
費用対効果 分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">B/C</td> <td style="width: 50%;">総費用</td> </tr> <tr> <td>(事業全体) 1.9</td> <td>(残事業)/(事業全体) 76/196億円</td> </tr> <tr> <td>(残事業) 0.6</td> <td>事業費：65/178億円 維持管理費：11/17億円</td> </tr> </table>	B/C	総費用	(事業全体) 1.9	(残事業)/(事業全体) 76/196億円	(残事業) 0.6	事業費：65/178億円 維持管理費：11/17億円	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">総便益</td> <td style="width: 50%;">基準年</td> </tr> <tr> <td>(残事業)/(事業全体) 49/375億円</td> <td>平成23年</td> </tr> <tr> <td>走行時間短縮便益：47/291億円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>走行費用減少便益：0.97/52億円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>交通事故減少便益：0.85/32億円</td> <td></td> </tr> </table>	総便益	基準年	(残事業)/(事業全体) 49/375億円	平成23年	走行時間短縮便益：47/291億円		走行費用減少便益：0.97/52億円		交通事故減少便益：0.85/32億円				
B/C	総費用																				
(事業全体) 1.9	(残事業)/(事業全体) 76/196億円																				
(残事業) 0.6	事業費：65/178億円 維持管理費：11/17億円																				
総便益	基準年																				
(残事業)/(事業全体) 49/375億円	平成23年																				
走行時間短縮便益：47/291億円																					
走行費用減少便益：0.97/52億円																					
交通事故減少便益：0.85/32億円																					
感度分析の結果	<p>(事業全体) 交通量：B/C=1.8~2.1（交通量±10%） 事業費：B/C=1.9~2.0（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.9~1.9（事業期間±20%）</p> <p>(残事業) 交通量：B/C=0.5~0.9（交通量±10%） 事業費：B/C=0.6~0.7（事業費±10%） 事業期間：B/C=0.6~0.7（事業期間±20%）</p>																				
事業の効果等	<p>①円滑なモビリティの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・損失時間の削減が見込まれる ・利便性の向上が期待できるバス路線が存在【柳井駅前～大島駅（19本/日）】 ・柳井市から新岩国駅（新幹線駅）、岩国錦帯橋空港（共用空港、H24年度開港予定）へのアクセスが向上 <p>②都市の再生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沿道まちづくりとの連携 <p>③国土・地域ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡 ・日常活動圏の中心都市へのアクセスが向上 <p>④個性ある地域の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白壁の町並み（H21年間観光入込客数7万人）、周防大島（同87万人）へのアクセスが向上 <p>⑤安全で安心できるくらしの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柳井市から三次医療施設へのアクセスが向上 <p>⑥災害への備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山口県の第1次緊急輸送道路に指定（一般国道188号） ・緊急輸送道路である一般国道188号が通行止めになった場合の代替路線を形成 <p>⑦地球環境の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出量の削減が見込まれる 																				

関係する地方公共団体等の意見	
<p>柳井バイパスは交通混雑の緩和等に重要な役割を果たすことが期待されており、柳井市及び2市1町で構成される岩国柳井間地域高規格道路建設促進期成同盟会より早期整備の要望を受けている。</p> <p>山口県知事の意見： 異存なし。 平成26年度の供用に向け、コストの縮減等に配慮の上、引き続き計画的に事業を進めていただきたい。</p>	
事業評価監視委員会の意見	
<p>事業者から各事業の概要、評価結果及び対応方針（原案）について説明を受け、事業が適切に実施されているか審議を行い、次のとおり意見の取りまとめを行った。</p> <p>審議の結果、再評価対象の事業は適切に実施されており、事業継続とすることとした事業者の判断は、妥当であると意見集約した。</p>	
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	
<ul style="list-style-type: none"> バイパス2車線供用により、現道の交通が大幅にバイパスに転換し、この区間の渋滞が緩和し交通事故が減少している。 柳井バイパス東詰交差点以東の現道拡幅区間では、依然として混雑度が高く、区間の平均旅行速度も改善されていない。（現道拡幅区間のみの残事業B/Cは1.1） 	
事業の進捗状況、残事業の内容等	
柳井バイパス東詰交差点～柳井警察署交差点までの2.5kmが暫定2車線で供用済みである。	
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	
<p>柳井の市街化区域として指定されている現道拡幅区間では、柳井のまちづくりと一体となった整備が必要である。また、歩道未整備区間が存在し、歩行者の交通安全確保が課題である。</p> <p>投資効果の早期発現を図るため段階的に整備しており、平成26年度に現道拡幅部L=1.0kmの供用を目指している。</p> <p>なお、バイパス部の4車線化の着手については、現道拡幅部整備後の交通の状況等を踏まえ、検討することとする。</p>	
施設の構造や工法の変更等	
道路照明の配置を交差点等の必要な箇所のみに変更し、事業内容を見直す。【約0.4億円】	
対応方針	事業継続
対応方針決定の理由	
以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。	
事業概要図	

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。
 ※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。